



### 飯野奉納歌仙

石太郎

この夏、古俳諧の材料蒐集に須賀川に行き、矢部博士の許で珍しい奉納歌仙の資料を得た。平の八幡宮に奉納したものである。磐城に現存するものとしては最大のものである。この時代のものとして當地方に残っているものでは稀有のものである。内藤翁が俳諧の奉納歌仙として、何か當地にある書だと前から考へておられ、さかしてもいたものである。露活が大崎八幡宮に奉納したことは数年前本誌上に發表したことがある。

次にのせる奉納歌仙中の季吟は北村季吟のことであり、季吟は西川家因のことで何れも風虎、露活の師事した江中の大家である。こうした大家が我が郷土に來遊したことなどから推して、如何に當時、我が郷土俳壇は活潑なうごめを呈して居つたか想像するに難くない。

面六句 十一句めを  
花の足座とす  
入句めを月秋  
の出所とす

面七句 五句めを花  
の足座とす  
百韻俳諧に各  
篇の裏に日を  
せぬに準て月  
をせず月有て  
もゆるしから

又歌仙の名ならでも、草木  
鳥獸、各所、露等の名當  
世の語をも句に立入連る事  
待り、其法は古今初歌集の  
物の名の部に習を善とす  
いへり。

寛文六年正月三日  
元隱藤之  
飯野八幡宮納 季吟  
つまで 神の御徳といひの  
の君重説  
庭々ぬ露の 三季ぞない  
蝶は舞 鳥は樂たや 奏す  
らん

猿のけしきにく物ぞな  
居所はひゆれと 愛におほ  
れ月  
猿や 岩のうへにつく  
おそ 人は人の様にも あらば  
しらねとと 誰おかむ  
まひ  
鳥井には いちごむさく  
霜覆て 松もふりたる 野の宮の  
体 秘もふりたる 野の宮の  
虫の音も 表れぬに ちん  
ちりり  
むろりと 露にうつる行  
燈  
宿を 化粧に さはく  
ちりりき 棒を 月迎き  
くくれ  
おひきも いさよひはて  
ぬらん  
おひきやう風や 吹て來  
ねのへに 花散りたりと  
へからでもとるのみの初  
草  
降しきる 春のあめ 牛お  
ひ馬もすなりて 道あしげ  
なり

猿くよ 尻餅つくな 秋を  
つげ  
門出の酒に 酔たさうな  
で  
さらばやといふもあやなく  
舌なへて  
うかへて 袖にすがる  
りたまこなり  
りたまこなり  
中 一跡やらん かためする  
まけながら 猫も ばちち  
をうつけ衆  
あしき友有すへや 猿火  
月くらき 夜半にやふたり  
立田哉  
紅葉みくらす 歌よ返し  
上  
菊にむすぶ 露の玉章給り  
て  
千年とちる 我命さま  
願くは 生れ逢度 北利に  
黄なる色ほど すいた色  
なし  
花といへどほんのみ事は金  
につくるの刀の 御代も長そ

### 豫防注射の 効果は贖面

市衛生課の調査によれば、豫防注射の効果を贖面するに難くない。市衛生課の調査によれば、豫防注射の効果を贖面するに難くない。市衛生課の調査によれば、豫防注射の効果を贖面するに難くない。

湯治薬湯再開  
早朝より  
平市城山 聚樂園

燃料問題  
市社会事業課  
助成會では  
食糧事情等から児童連のべん

### 三三三

販賣・修理・部品  
平三三三  
イシカワ

### 感電死

七日午後四時三十分頃好間村  
北好間小田原電機大業合興  
作(二九)は排水坑壁入ポン  
プ座で作業中感電即死

### 湯本引揚者 美しい見舞

海外引揚者連は引揚者連協働湯  
本支部長松本久吉氏の花枝夫  
人が半年余も病床にあるのを  
知るや、日頃のお世話にむく  
ゆるのはこの時と苦しい中か  
らも贈出し合つて、この程見  
舞金を贈つたので、松本氏も  
感激している。

漁業労働者用  
衣料品配給所  
江名町漁業會

江名町衣料品配給所  
江名町丸屋  
江名町三新屋  
江名町中山屋  
江名町菊屋  
江名町中商

高級ライター  
數種入荷  
高級ブラチチ万年筆  
販賣中  
修理は親切丁寧に 平市三丁目電三九九番